

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (中学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

葛西中学校

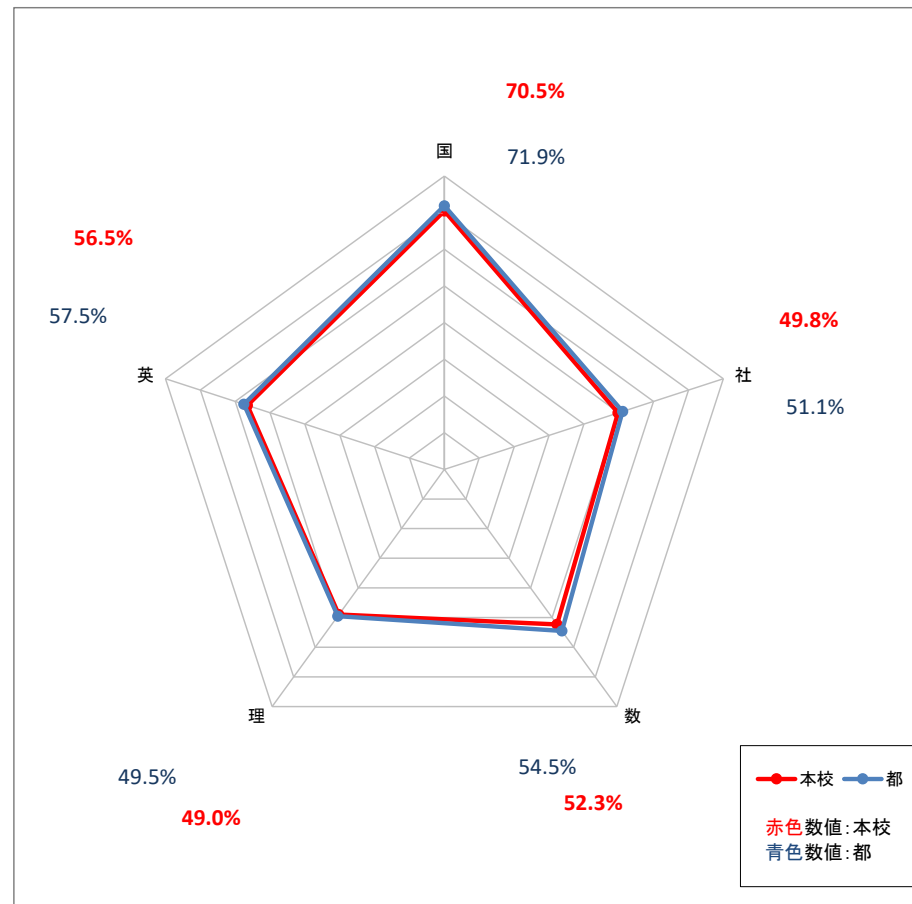
国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	74.8%	58.9%	79.3%	69.1%	71.9%
本校	74.1%	54.9%	79.9%	66.5%	70.5%
都との差	-0.7	-4.0	0.6	-2.6	-1.4

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的な事象についての知識・理解	
東京都	48.7%	61.9%	41.1%	51.1%
本校	46.1%	59.3%	43.3%	49.8%
都との差	-2.6	-2.6	2.2	-1.3

数学	教科の観点			教科の合計
	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	
東京都	31.4%	62.4%	63.3%	54.5%
本校	27.0%	60.2%	63.1%	52.3%
都との差	-4.4	-2.2	-0.2	-2.2

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	
東京都	43.9%	60.2%	47.4%	49.5%
本校	43.2%	60.6%	46.7%	49.0%
都との差	-0.7	0.4	-0.7	-0.5

英語	教科の観点			教科の合計
	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
東京都	46.1%	62.4%	59.2%	57.5%
本校	43.0%	61.2%	60.6%	56.5%
都との差	-3.1	-1.2	1.4	-1.0



《都との比較にみる本校の状況》

＜観点別の都平均との比較＞
 (観点の数字は上記左から1～5とした)
 ○都平均より上位の項目は、国語3、社会3、理科2、英語3である。区平均より上位の項目は、国語1、4、数学2、3、理科3、4、英語1、2、4
 ●都平均から5ポイント以上低い重点課題とする項目はない。
 ＜学力の4層分布＞
 (A層が都最上位層25%の得点にあたる本校での人数割合で、25%以上いれば、都平均より上位といえる。D層はその逆に25%より少ないほうが上位)
 ○国語: A層が21.6%で、D層は23.2%だった。社会: A層が25.4%で、D層は28.6%だった。数学: A層が29.4%で、D層は20.6%だった。理科: A層が29.4%で、D層は19.8%だった。英語: A層が34.9%で、D層は26.2%だった。A層が25%を超えた教科が多いが、D層が25%を超えている教科も多い。教科によるが、二極化している傾向も見られる。

《授業改善のポイント》

○国語: 書く能力を向上させるために自分の考えを意見文にまとめ、意見交流する場を増やす。新聞記事や資料などをもとに要約や資料の読み取りの機会を設ける。
 ○社会: 授業の導入や授業中に、なぜ、どのようにという疑問をもたせ、自ら追究する課題を設定していく。
 ○数学: 問題文が読解できていないため、問題が解けていない傾向がある。考え方を共有する時間をつくり、学び合う時間を設定する。
 ○理科: 実験・観察の方法、結果からの考察等、自ら考え、その後グループ内で話し合い活動を行っていく。理由を考えさせることで、知識の定着へとつなげていく。
 ○英語: 帯活動として3分間英作文の実施や、復習として並べ替えからの英作文指導を行っていく。聞き取り対策として、日頃の単語の発音練習の際にカタカナ発音でなく、正しい発音で言えるように指導する。また、日常的にリスニング問題に取り組ませる。

《家庭・地域への働きかけ》

○国語: 家庭でも本や新聞など活字に触れる機会の充実をお願いします。
 ○社会: 授業毎に小テストを実施しているため、必ず家庭で復習することの声掛けをお願いします。
 ○数学: 定期考査前にワークの提出などを行っています。授業ごとに学習した内容を復習できるワークなので、家庭学習の課題として促進しています。
 ○理科: 主に、定期考査前に家庭学習の充実をお願いします。
 ○英語: 定期考査前に、ワーク提出などを行っています。また、単元ごとに小テストを実施しているため、ご家庭で復習することの声掛けをお願いします。